



NEWSLETTER 2014 年 4 月 Vol. 9

AJWCEF 会員及びご支援を頂いております皆様へ

皆様におかれましては、平素より AJWCEF の活動にご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。お陰をもちまして弊財団は本年 9 月に設立 5 周年を迎えます。これはひとえに皆様のご支援の賜物と心から感謝しております。

さて振り返りますと、2011 年に日本で東日本大震災が起りましたが、同年オーストラリアでもクィーンズランド州を中心に未曾有の大洪水が起りました。このときの洪水総面積はドイツとフランスを合わせた面積に匹敵するといわれています。その後、クィーンズランド州のモートン湾周囲でジュゴンが死亡する例が続いており、クィーンズランド大学獣医学部で調査が行われております。過去の洪水後にもジュゴンが亡くなった事がありますが、その時は洪水後の海水の混濁が原因でジュゴンの餌となるアマモが枯れたことが主な原因と考えられました。しかし、この度の洪水後の調査では死亡したジュゴンの体から異常に大量な寄生虫の寄生や、通常見られない皮膚疾患が発見されました。これらはジュゴンの体に免疫の不全が起こっている可能性を示唆しています。その原因は未だ特定されておきませんが、考えられる原因の一つは、有害物質や重金属などによる海水汚染が上げられます。クィーンズランド州は鉱山が多くあり、鉱物資源採掘と精錬の為、有害化学物質を大量に使うこともあります。また、オーストラリアではリサイクル以外のごみは焼却せず、ほとんど地下に埋めて処理しています。このような状況が洪水後にモートン湾を汚染させる原因になった可能性は充分にあります。

また、世界の海ではマイクロプラスチックの問題が深刻化してきています。ごみとして捨てられる大量のビニール袋やプラスチック類などは、海に流れ込み、時間経過とともに細かな断片に細分化されていきますが、自然に分解される事はなく、海中には顕微鏡で見なければわからないような大きさのプラスチック片が多く含まれています。プランクトンや貝類、甲殻類、小魚がこのプラスチック片を餌と間違えて摂取し、やがてその食物連鎖の頂点にいる人間の体内に蓄積していきます。人の一生の内に体に蓄積されるプラスチックの量は 400g にも達するという説もあります。

AJWCEF はこのような現状をトレーニングコースやセミナーを通じ広く皆様にお伝えし、世界の自然環境を守る為、広く一般社会の意識を高め、環境汚染を防止する事に貢献するよう努めております。また、クィーンズランド大学の調査に資金援助も行っております。皆様におかれましては、このような AJWCEF の活動に今後もご支援を賜りますようお願い申し上げます。

AJWCEF 理事長
水野 哲男

中継による環境教育を行っている AJWCEF とクィーンズランド地区高校が
ナショナル - オーストラリア - バンクの教育助成金賞に選ばれました。

オーストラリア野生動物ニュース！

—クイーンズランド州ゴールドコーストの奥地でアンテキヌスの新種が発見された！—



Copyright Gary Cranitch (Qld Museum)

アンテキヌスはネズミのような外見の有袋類で、昨年オスがすさまじい繁殖活動の後にストレスによって死ぬことが発見されて世界的に話題になっていた。

クイーンズランド州の科学者たちが、そのアンテキヌスの新種をゴールドコーストの奥地に発見した！この新種はブラックテール アンテキヌス (Black tailed antechinus) という。

ニューサウスウェールズ州の北部からクイーンズランド州ゴールドコーストの奥地に渡るスプリングブルック (Springbrook) 国立公園の湿った高地に生息すると考えられる。

アンテキヌスは通常生後11ヶ月の頃に壮絶な交尾をする期間があり、全てのオスはその子孫の誕生前に死ぬと言われるが、この新種も一歳になる前に全てのオスが死ぬと考えられている。

クイーンズランド工科大学のペイカー博士は、この種を絶滅危惧種に指定すべきだと言う。

引用および参考：Zootaxa 3765 (2): 101–133 A M BAKER et.al. The Black-tailed Antechinus, *Antechinus arktos* sp. nov.: a new species of carnivorous marsupial from montane regions of the Tweed Volcano caldera, eastern Australia

ABC ニュース 2014 年 2 月 19 日「Scientists discover new species with fatal attraction on Queensland's Gold Coast hinterland」

—モギルコアラ病院ニュース—

①青い瞳のコアラがやってきた！

2014 年 3 月、AJWCEF 野生動物保護トレーニングコースの実習先の一つであるモギルコアラ病院にとっても珍しい青い瞳のコアラが救助されて来た！診察の結果、大きな問題が見られなかった為まもなく森に帰された。

生息地の喪失や、犬に咬まれる、車に轢かれるなどのストレスによって、日和見感染症で結膜炎になってしまうコアラがたくさんいます。生息地の平和と安全が守られ、いつまでもその美しい瞳を輝かせていられますように願っています！



②わずか15gの赤ちゃんコアラ！



2014 年 4 月、メスのコアラが救助されました。彼女のお腹の袋にとっても小さい赤ちゃんコアラが育っているのが確認されました！！

お母さんコアラの筋肉はかなり失われていますが、赤ちゃんが乳首に完全にくっついていて、お母さんから引き離して人間の手で育てることは出来ません。たとえ引き離せたとしても、毛の生える前の赤ちゃんコアラを人の手で育てることは非常に難しいと言われています。コアラ病院では、赤ちゃんがしっかり育つように、お母さんコアラに出来るだけ上質のユーカリを与え、温かく見守っていくことになりました。お母さんと一緒にユーカリを食べる赤ちゃんの姿を見る日が来るのが楽しみです！

(写真提供：モギルコアラ病院)

2014年3月トレーニングコース（初級）レポート

岩手大学農学部 真崎哲



結膜炎に罹った目の洗浄

この AJWCEF のトレーニングコースに参加して、僕は本当に素晴らしい経験をする事が出来ました。日本には生息していない有袋類や単孔類について、日本とはまた違う野生動物保護のシステムについて学び、新しい知識と共に新しいものの考え方が出来るようになったと思います。農学部で環境系について学んでいる僕としては、医療系についての話題を聞いたことはとても新鮮で、自分の知らない知識や自分が学んでいる分野についての知識を友達と互いに教え合うという大学ではなかなか出来ない経験もしました。

元々将来はオーストラリアに行って有袋類について学びたいという漠然とした想いがあったので、実際にコアラをはじめとするオーストラリアの動物たちを目の当たりにしたときはとても感動しました。

また、ボランティアとして清掃や給仕などのお世話をしている職員さんのお話を聞いて、色々な形でそういった動物関係の仕事に関われることやそういった環境がしっかり整っているということを知ったので今後の参考にもなりました。

普段の会話はもちろん英語でしたが、英語が話せない僕は通訳の方がいないと話せなかったり、本当に聞きたいことを正しく質問できなかったりととても悔しい思いをしました。そしてその悔しい思いが“絶対英語を話せるようになろう”と思うきっかけとなり、帰国後すぐに英語の勉強を始めました。英語が話せることでいかに自分の世界を広げられるかということを目の当たりにすることができたと思います。

今回オーストラリアではたくさんの人と出会い、たくさんの動物たちと触れ合うことが出来ました。海外で貴重な経験をして、改めて日本の良さを知ったり自分を見つめなおすきっかけにもなりました。ぜひ、これを見ている皆さんも参加してみてください。



木登りカンガルーへの餌付け

日本大学獣医学科 小野 文菜



私は、国内で動物園や水族館で実習を行った際に、よく学生の間に海外に行くことが大事だと言われ、この研修に応募しました。その時は勧められる理由が何故だか全然わかりませんでした。しかも英語はあまり得意ではなくて、とても不安でした。

David Fleay Wildlife Park での実習を通して、日本とオーストラリアの野生動物に対するアプローチの仕方は異なっていて、自分の視野がいかに狭かったか知ることができました。日本の動物園で実習を行った経験のおかげで、それらを顕著に感じる事ができました。また、カランビンの中に私が理想とする野生動物を扱う動物病院があり、感動しました。しかもその病院での治療や手術は一般の方々に公開されていて、一般の方々に野生動物に関しての現状を理解してもらうシステムが作られていて、驚きました。コアラ病院での実習では、コアラの解剖を行うことができ、貴重な経験をする事ができました。私自身、コアラについての情報を全然知らなくて、コアラの現状

を知り、ただただ驚くばかりでした。ぜひ大学の友達にその情報を伝えて一人でも多くの人が知ってくださればいいなと思いました。この研修を通して、一番感じたことは自分の視野を広げて、より多くの情報を知り、考えて、自分の意見をより自信を持って相手に伝えることが出来る意見にしていこうと思いました。この研修の経験を活かして日本の動物に対する考え方をよりよい方向に導くことができたかなと思います。

活動報告

2013 年 11 月から 2014 年 4 月まで



メディア

1. 「日豪児童 相手の言語で」 2014 年 2 月 10 日 (中日新聞) AJWCEF インターネット中継教育
2. 「テレビ東京開局 50 周年特別企画 地球ドック～宇宙から今の地球を健康診断～」
2014 年 4 月 3 日 (テレビ東京)

インターネット中継教育

1. オーストラリア ブリスベン市、レッドランド市、イプスウィッチ市、ゴールドコースト市などにある野生動物及び環境保護施設やクリーブランド地区高校、プレンバイル小学校と、岐阜県可児市にある可児工業高校、南帷子小学校を中継で結び、オーストラリアの自然、生活、環境保護活動などを英語で紹介する中継教育活動を実施。

野生動物保護トレーニングコース

1. 2014 年 3 月 トレーニングコース (初級)

事業

1. ユーカリ植林事業
(モギルコアラ病院、プレンバイル小学校、ケンモア・サウス小学校、AJWCEF での共同事業継続中)
2. オーストラリア日本研究交流事業
(クイーンズランド大学、日本獣医生命科学大学、モギルコアラ病院、デービッドフレイ野生動物公園等)

寄付

1. 2013 年 10 月カランビン ワイルドライフ サンクチュアリー : \$350
2. 2013 年 12 月カランビン ワイルドライフ サンクチュアリー : \$1,500
3. 2013 年 12 月モギルコアラ病院 : \$1,040
4. 2014 年 1 月デイヴィッド フレイ 野生動物公園 : \$150
5. 2014 年 3 月イプスウィッチ コアラ保護協会 : \$200
6. 2014 年 3 月モギルコアラ病院 : \$1,200
7. 2014 年 4 月カランビン ワイルドライフ サンクチュアリー : \$450





イベント情報

トレーニングコース

1. 野生動物保護トレーニングコース（海洋生物初級）

2014年8月15日～8月23日（9日間）

第一次募集期間：2014年4月5日～5月31日

開催地：オーストラリア クイーンズランド州



2. 野生動物保護トレーニングコース（初級）

2014年8月31日～9月14日（15日間）

第一次募集期間：2014年4月25日～5月31日

開催地：オーストラリア クイーンズランド州



※詳細は AJWCEF ホームページにてご確認ください。



AJWCEFスタッフ紹介

KEN



こんにちは、KENと申します。現在、大学で獣医学を専攻しています。2013年春にAJWCEFのトレーニングコースに参加し、オーストラリアの野生動物保護の現状を知り、一緒に行ったメンバーとともに貴重な時間を過ごすことが出来ました。将来、野生動物に関する仕事をしたいと強く思わせてくれる経験となりました。学生として、日本から何かできることがあれば協力させていただきたく、また自分自身の英語学習にもなると思い、ブログ広報ボランティアに志願させていただきました。オーストラリアでの報道を日本語で紹介する活動に少しでも力になればと思っております。よろしくお願いいたします。

三原衣理

初めまして。ボランティア会員としてブログメンバーの一員になりました、三原です。現在、獣医学科に所属し獣医学を学んでいます。

以前から野生動物の保護に興味があり、2013年度のトレーニングコースに参加して、多くの事を学ばせていただきました。

情報を受け取るだけでなく、少しでも情報を発信する側のお手伝いがしたいと思い、今回ボランティア会員となりました。どうぞよろしくお願い致します。



会員(個人・法人)募集 及び 支援寄附のお願い

皆さまのご支援が小さな命を助けます

詳細は、AJWCEFのサイトwww.ajwcef.orgで『参加・協力』のページにお進みください。

ニューズレター発行元
オーストラリア野生動物保護教育財団本部事務局
発行責任者 水野哲男
編集担当 平野聡美
ホームページwww.ajwcef.org
住所 PO Box 1362 KENMORE,
QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA
電話 +61 7 3374-3909 FAX +61 7 3374-3531